



豊かになった

水鳥

トンボ

湿地の植物

水辺再生で

生物多様性 & 楽しみ

up!

自然の減少や劣化が各地で進み、野生生物の生息状況が悪化している。こうした中、上尾丸山公園ではネイチャーポジティブ※を推進し、野生生物の個体数増加や絶滅危惧種の復活が確認されている。今号では2023～2024年度に実施した取組を中心に報告する。

※自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止めて反転させること。世界的な潮流になっている。



ハラビロトンボ
(埼玉県レッドデータブック
準絶滅危惧2型)



湿地環境を維持する草刈り



作業イベントで堆積土を掘る参加者

やぶになった湿地の再生
園内の未開園区域には、乾燥化や樹林化が進んだ湿地がある。この区域を荒川流域の原風景である湿地として再生する作業を行った。作業イベントや上尾水辺守の活動でノイバラやセイタカアワダチソウのやぶを刈り払い、堆積物を掘って運び出した。
作業後には開けた水面、埋もれていた湧水口や小川も見えるようになった。明るい湿地に生息するシオヤトンボやハラビロトンボも確認されている。今後も草刈りを継続し、湿地環境を維持していく。

池の景観の変化



2020年8月



2024年5月



生育が確認されたミズアオイ

人工池を生きもの豊かな湿地に
花菖蒲田区域にある池で、底のシートをはがして水生植物が生育できる環境にする作業イベントを開催した。これと合わせて池の水位も下げたところ、ヒメガマやカヤツリグサ類が生育する湿地に生まれ変わり、絶滅危惧種のミズアオイが発芽した。ギンヤンマやシオカラトンボも増加し、動植物の観察を楽しむことができる場所になった。



明るい池や湿地環境を好むシオカラトンボが今年多かった



息を合わせてシートを引っ張る参加者

生物の放流問題 啓発チラシ配布中

上尾丸山公園では、無断で放流された観賞魚やホテイアオイなどの水草が見つかっています。他所から持ち込まれたヘイケボタルやカワニナも確認されており、関係者間で情報共有や防除を進めています。

外来種(園芸種、観賞用の生物を含む)や、国内の他の地域から持ち込まれた外来集団は、もとも生息している在来種に対して捕食や競合、交雑による被害をおよぼします。寄生虫や病原菌の侵入リスクも高まります。

こうした放流を防ぐために、上尾市では放流問題を解説したチラシを作成しました。園内で配布しているほか、市みどり公園課ホームページでダウンロードできますのでご覧ください。

下記リンクよりダウンロード可能です



放流はダメ! 放流はムダ!



ヒメダカ

ホテイアオイ



カワニナ

園内に放流された生けものたち

注目のトピックス



開花したアサザ。いまは容器の中にあるのみ。

アサザを確認 湿地の泥から絶滅危惧種が発芽!

上尾市は、園内の湿地にかけて生育していた植物を把握する目的で、湿地で採取した泥からの発芽調査を行っています。

調査している容器から、2024年にアサザの発芽が確認されました。沼や水路などに生育する浮葉植物で、水辺の減少や、生育地が管理されなくなると陸化・やぶ化が進んだこと、アメリカザリガニなどの外来種の影響で減少し、埼玉県では絶滅危惧Ⅱ類に選定されています。

発芽調査ではほかにもシヤジクモなどが確認され、過去には多種多様な水生植物が生育していたことがわかりました。これらの植物が野外で復活できるように、湿地環境の再生を進めていきます。



発芽調査容器の手入れをする上尾水辺守



上尾丸山公園 いきもの 図鑑

オオヨシキリ (大葎切)

春の連休の頃に渡来し、ヨシや低木にとまってギョギョシ、ギョギョシと鳴きます。

大池の上流部に広がったヨシやマコモの茂みで数週間観察されました。水辺再生がさらに進むと定着が期待できそうな鳥です。

